

# 令和5年度 横浜市学力・学習状況調査結果について

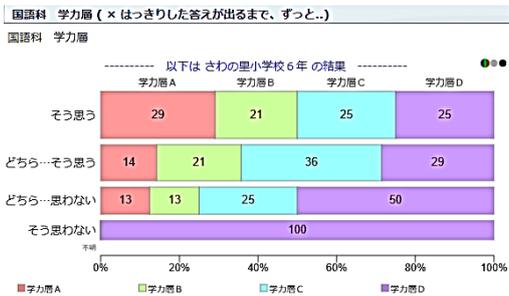
## ① 調査結果の概要

「チャート1」から、学力については全体的に横浜市の平均を下回っていることが分かる。しかし、2年生と3年生において、学習意識は平均を上回ってきており、それぞれの学習への意欲の高さが見られている。2年間、生活科や総合的な学習の時間の重点研究を通して、「学ぶ楽しさ」を軸とした授業改善を図ってきた成果と思われる。

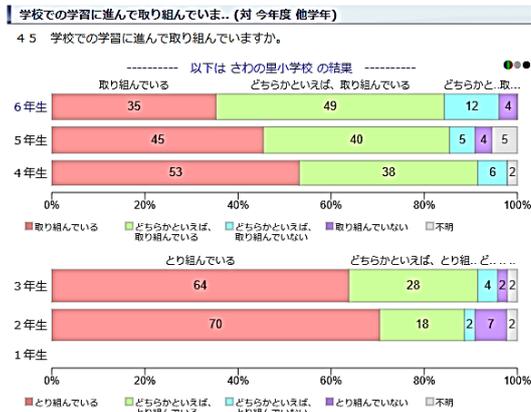
学力層と学び方との関連を見てみると、例えば「チャート2」のように「はっきりした答えがでるまで、ずっと考える方だと思いませんか。」という設問に対し、「そう思う」と答えた児童の割合には学力層 A(力が身に付いている層)の児童が多く、「そう思わない」と答えた児童は全て学力層 D の児童であった。この結果から、**簡単にはできないこと、分からないことに対してあきらめずに挑戦したり何とか解決する方法はないかと考えたりすることが D 層の割合が多いさわの里小学校の児童に必要なことだと考える。**



「チャート1」 学力、学習意識、生活意識の学年別の状況



「チャート2」 第6学年の国語科学力層と「はっきりした答えがでるまで、ずっと考える方だと思いませんか。」とのクロス集計

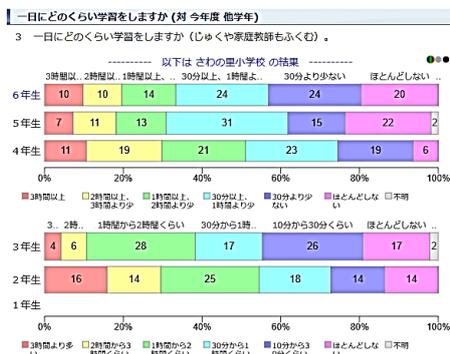


「チャート3」 「学校での学習に進んで取り組んでいますか。」の全学年の状況

## ② 今後の取組

調査の結果を受けて、学校として「主体的に学び合う子ども」を目指し、今後も重点的に取り組んでいきたい。「チャート3」からも分かるように高学年になるにしたがって「学校での学習に進んで取り組んでいますか。」という設問での「取り組んでいる」という割合が低くなっている。生活科や総合的な学習の時間の充実を図ることにより、「～したい、どうしたら～できるのだろう」といった課題を見だし、学習に対する必要感をもつことを目指していく。また、自分自身の学びを客観的に捉え、自覚できることが学力向上につながると言われているので、どの教科の学習においても「振り返り」を大切にに取り組んでいきたい。

最後に、「チャート4、5」にあるように、家庭での学習や読書の時間の充実を図れるよう、学校・家庭が力を合わせてよりよい生活習慣の定着に向けて取り組んでいきたい。



「チャート4」 「一日にどのくらい学習をしますか」の全学年の状況

「チャート5」 「一日にどのくらい読書をしますか」の全学年の状況

